

雑誌の仕事を始めから、半年余りになる。現在、四誌と仕事をさせて頂いているが、それぞれの雑誌が求めるものが異なり、原稿に向かう毎に、頭をかかえてしまう。一体、この編集者は、私に何を求めているのだろう。その問いが頭の中にふくれ上がり、一向に筆が進まぬ内に、メ切りが迫まってくる。いくつかの原稿が一期にメ切りを迎える時ほど、苦しい時はない。書かなければならないという使命感、義務感と、何故、原稿を受けてしまったんだろうという後悔が、いり混って、圧迫感を与える。

やつの思いで書き上げた原稿が、編集者の意向に合わなかったり、スポンサーからクレームが付いたりして、書き直しをしなければならぬ時は、多い。そんな時、自分の文章の甘さと表現力の乏しさを思い自己嫌悪に陥ってしまう。自己満足の文章でなく、わかりやすく、しかもある種の圧力、説得力を持つ文章を

書けるようになりたいと思うが、なかなかその希望は達成できず、よく練れていない文章のまま編集者に渡してしまったりする。多くの場合、それは書き直しとなる。一回、二回を書き直しする内に、やっと先が見えてくる。一つの原稿を上上げる時、それは、無から有を生む苦しみだ。

しかし、自分の文章が活字となり、印刷され、多くの人々の目に触れる喜びは忘れられない。ただ、それだけのために私は、書く苦しみに耐えているのかもしれないと、書店の店頭で思う。

一つの課題を編集者から与えられ、それに取り組む時、ごく日常的な事物も、見る角度を変えたり、切り込み方を変えることで、様々な物が見えてきたり、また、全く新鮮なものへと変換するのは、面白い。

しかし、いい文章とは、本当に苦しいものだ、とつくづく思う。
(誉)

幼児の教育 第八十四巻 第十号

十月号 ◎

定価三五〇円

昭和六十年九月二十五日 印刷

昭和六十年十月一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子

発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします